

2011年9月期 決算説明会

2011年11月29日
代表取締役社長 廣谷 彰彦



東日本大震災により被災された地域のみなさまに
心よりお悔やみとお見舞いを申し上げます。
被災地の一日も早い復旧・復興に向けて、
少しでもみなさまのお力になれるよう、
弊社グループは引き続き
総力を結集して取組んでまいります。

プレゼンテーション・アウトライン

★ 本日のポイント

- I： ACKグループのご紹介
- II： 2011年9月期 業績ハイライト
- III： 2012年9月期 業績目標値
- IV： 今後の展開 ー経営基盤の改革等ー
- V： 質疑応答

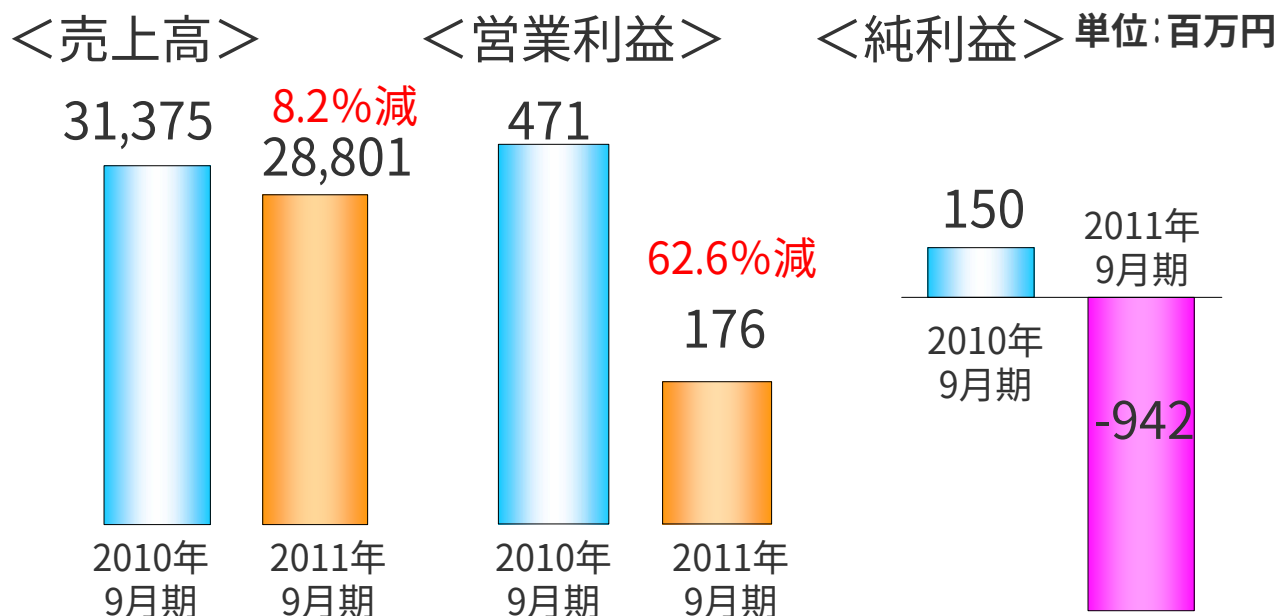
APPENDICES

ー主要トピックス、連結決算詳細

本日のポイント

1

売上・利益は減収・減益(対前期比)、
純利益は赤字(経営対策等により回復見込み)

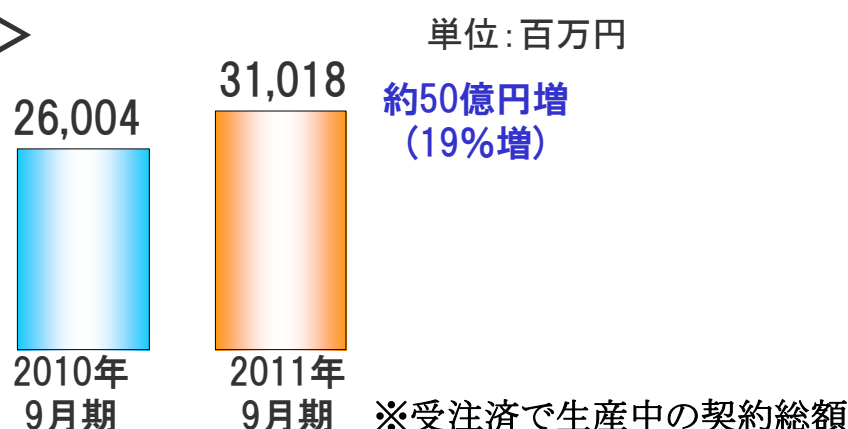


本日のポイント

2 2012.9月期(来期)は確実に回復

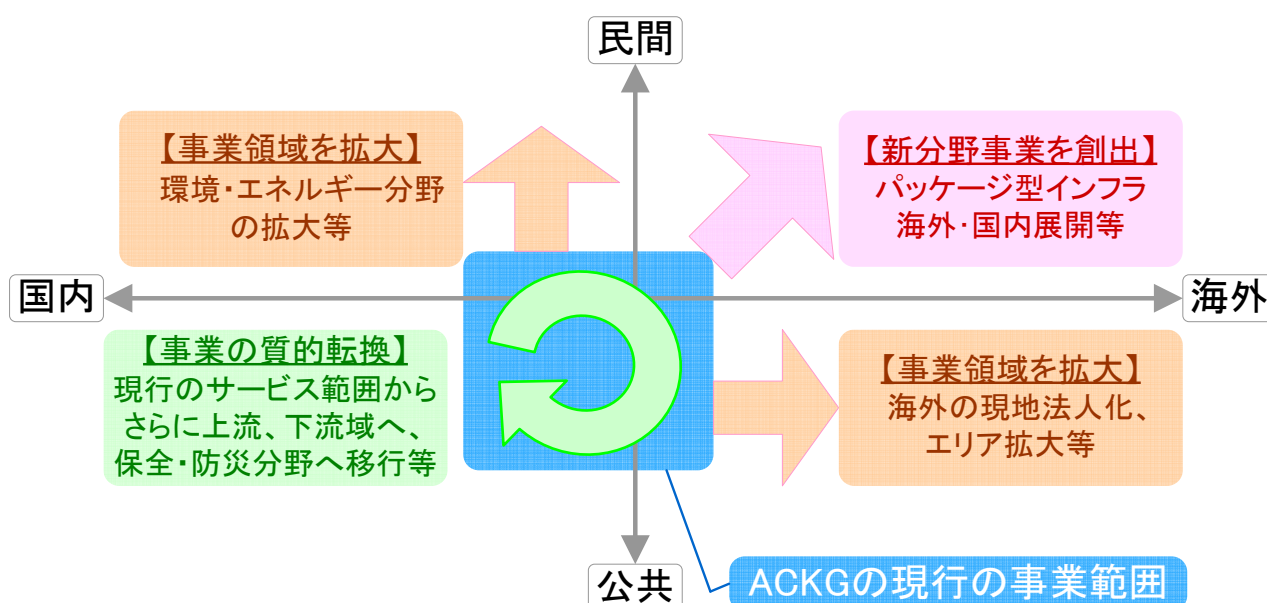
- 当期純利益の赤字は一過性(震災関連減損等費用など)
- 当期下期の受注回復により、受注残高は前期比約50億円(19%)増
⇒ 来期の売上高増加に貢献
- 当期にコスト削減策を実施済(事務所移転等)
⇒ 来期以降は経費等を約2億円削減見込み

<受注残高※>



本日のポイント

3 市場変化を先取りした経営基盤改革を断行



I：ACKグループのご紹介



私たちACKグループは、社会の安全・安心・豊かさを
追及するコンサルティングサービスを提供します。

ACKグループは、
「知：Knowledge」を追求し、
「前進し続ける：Advancing」ことを目指す
「コンサルタント：Consulting」集団である。
また、ACKグループの求める「知」は、
「活動的な知：Active Knowledge」
でありたいと考えている。

【ロゴマークの意味】

「知」を核とし、決まった型にはまらず、
時代の変化に応じて、自由に業容を変えながら
仲間を募り広がっていく。



ACKグループの活動フィールドの一部ご紹介

人々が安全・安心・便利に暮らせる
そして効率的な経済活動や事業活動が出来る
そんな人々の活動基盤創りの企画、検討、実現に取り組む
専門技術・コンサルティングサービス企業群です



ACKグループが対象とする活動フィールド(抜粋のみ) のイメージ

ACKグループが提供している主な業務



グループ会社の紹介



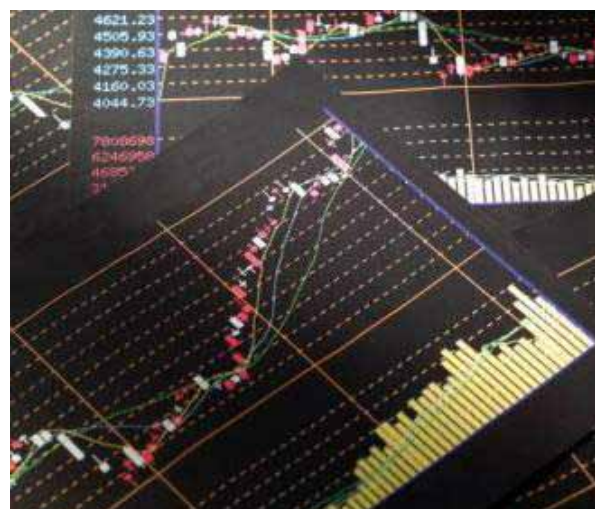
当社では、さらなるグループ経営の効率化、経営体制強化による受注拡大等を目指し、**H23.12.1**より5社体制となります

会社名	創立	主な技術サービス・商品
(株)オリエンタルコンサルタンツ	1957年	交通・都市・環境・構造・防災・プロジェクトマネジメント など
※1 (株)アサノ大成基礎エンジニアリング	1962年	地質・土質・調査・構造・さく井・地下水、建造物解体 など
(株)エイテック	1968年	建設・交通に関する、調査・設計・監理・測量・計器類 など
(株)中央設計技術研究所	1947年	上下水道・廃棄物の処理・活用 など
※2 (株)リサーチアンドソリューション	1978年	ソフトウェア開発・販売、間接業務、人材マネジメント など

※1 (株)アサノ大成基礎エンジニアリングは、H23.12.1付で、大成基礎設計(株)と(株)アサノ建工が合併し、設立いたします。

※2 (株)リサーチアンドソリューションは、H23.10.1付で、吉井システムリサーチ(株)と(株)オリエスシェアードサービスが合併し、設立されました。

II：2011年9月期 業績ハイライト



連結受注高

■受注高は増加、前期比で435百万(1.3%)増

- 国内公共軸は、下期に震災関連補正等により受注が回復
- 海外軸は、前期から引き続き受注が好調
- 受注残高は約50億円(19.3%)増加と来期の売上に貢献

(百万円)

	前期 (2010/9)	当期 (2011/9)	増減	期首計画値
受注高	33,380	33,815	+435 (+1.3%)	—
受注残高 [※]	26,004	31,018	+5,014 (+19.3%)	—

※受注済で生産中の契約総額

連結売上高

■売上高は減少、前期比で2,574百万円(8.2%)減

- 国内公共事業を中心に上期受注の減少が売上高に影響
- 海外事業は受注が堅調に推移するも、工期が長期にわたるため当期の売上貢献が少ない

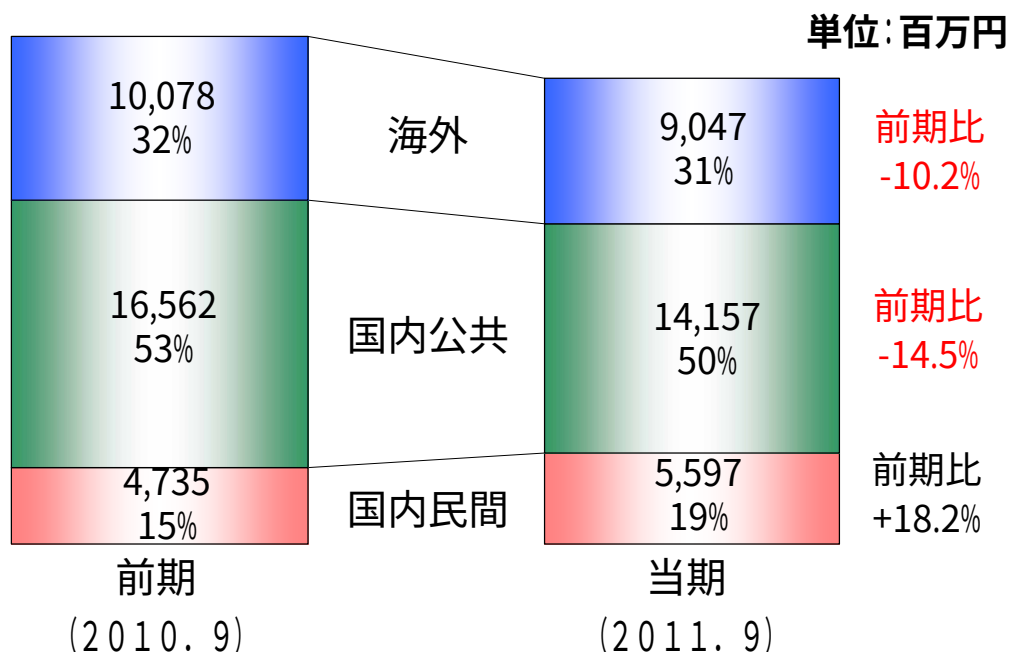
(百万円)

	前期 (2010/9)	当期 (2011/9)	増減	計画値	
				当初	修正 (2011/8)
売上高	31,375	28,801	-2,574 (-8.2%)	32,000	30,000

連結売上高 3軸経営分野別

■海外、国内公共事業で売上高が減少（前期比約1割減）

➤国内民間事業は売上高が増加であるが、構成比は約2割



連結損益 (利益)

■利益は前期から減少、特に当期純利益は赤字

- 営業利益、経常利益は、売上高減少や円高による為替差損などが影響
- 当期純利益は、震災による損失等による特別損失、コスト削減策関連費用（当期のみ）の計上などが影響

(百万円)

	前期 (2010/9)	当期 (2011/9)	増減	計画値	
				当初	修正 (2011/8)
営業利益	471	176	↓ -295 (-62.6%)	550	130
経常利益	455	102	↓ -353 (-77.4%)	520	120
当期純利益	150	▲942	↓ -1,092 (-)	185	▲900

貸借対照表 (B / S)

■ 当期純損益、減損会計適用などにより資産は減少

- 資産は主に固定資産の減損等により減少
- 負債は主に未成業務受入金により増加

(百万円)

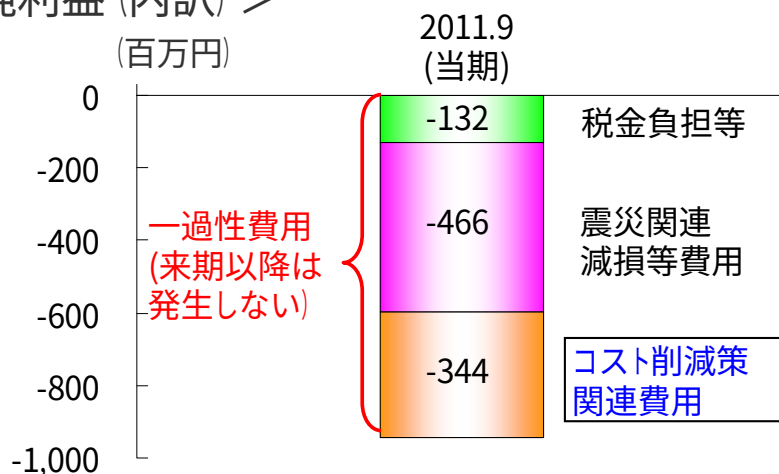
	前期 (2010/9)	当期 (2011/9)	増減
資産合計	18,548	17,838	↓ -710 (-3.8%)
負債合計	12,146	12,517	↑ +371 (+3.1%)
純資産合計	6,401	5,321	↓ -1,080 (-16.9%)
負債・純資産 合計	18,548	17,838	↓ -710 (-3.8%)

当期純利益について

■ コスト削減策実施等により来期以降の利益確保を実現

- 当期純利益の赤字は、震災関連など一過性費用が影響
- コスト削減策等により来期以降は約2億円の削減を見込む

< 当期純利益 (内訳) >



※1 震災関連減損等費用：災害による復旧費用と減損損失費用を計上

※2 コスト削減策関連費用：事務所移転費用や特別加算退職金等を計上

III: 2012年9月期 業績目標値



グループを取り巻く外部環境

海外

- アジア諸国を中心にインフラ整備需要は依然高い
- 政府も「パッケージ型インフラ海外展開」を積極的に推進

国内 公共

- 東日本大震災の復旧・復興予算は増加が予想
- 社会インフラは新設から運営・維持管理へと変化

国内 民間

- 民間企業投資が下げ止まりつつあるが不透明
- 原発事故等により環境・エネルギー分野の需要拡大が予想

2012年9月期通期業績目標値

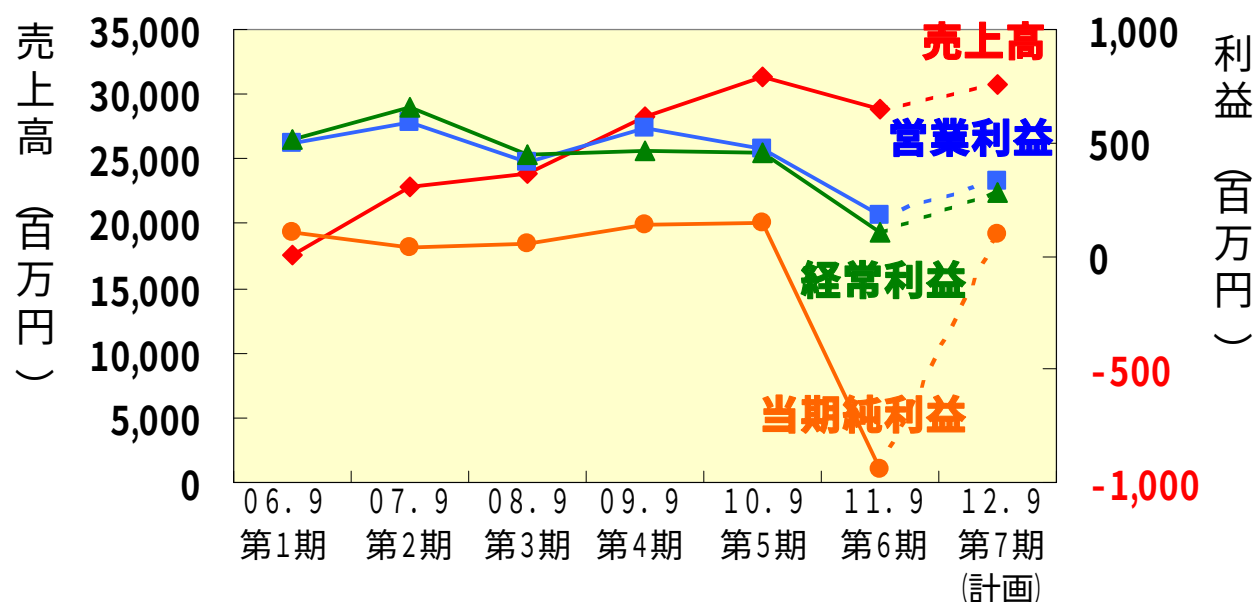
■ 2012年9月期は対策実施等により確実に回復

(百万円)

	2011/9月期 通期 実績値	2012/9月期 通期 計画値	増減
売上高	28,801	30,800	↑ +1,999 (+6.9%)
営業利益	176	330	↑ +154 (+87.5%)
経常利益	102	280	↑ +178 (+175%)
当期純利益	▲942	100	↑ +1,042 (—)

通期業績の推移

- 売上高：経営基盤の改革等により売上高を回復
- 利 益：コスト削減策実施等により利益を確保



IV: 今後の展開 ー経営基盤の改革等ー

ACKGのミッション、ビジョン

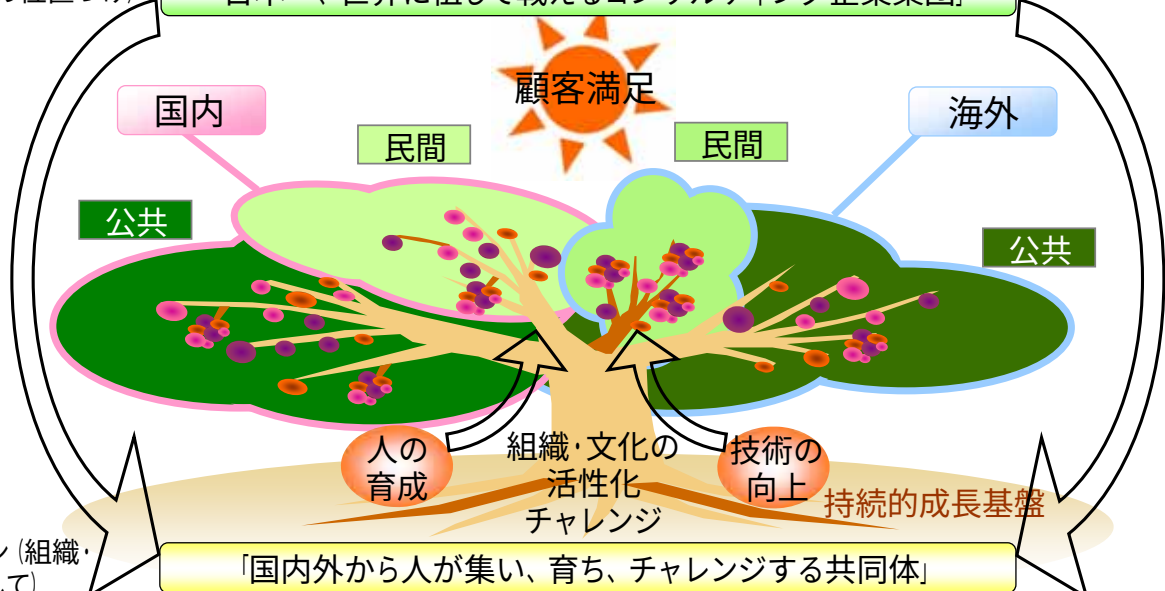
■成長サイクルを回し、ビジョンを実現

■ミッション

「世界の人々の豊かなくらしと夢の創造」
～サービス領域無限大のチャレンジ～

■ビジョン (市場・ 社会での位置づけ)

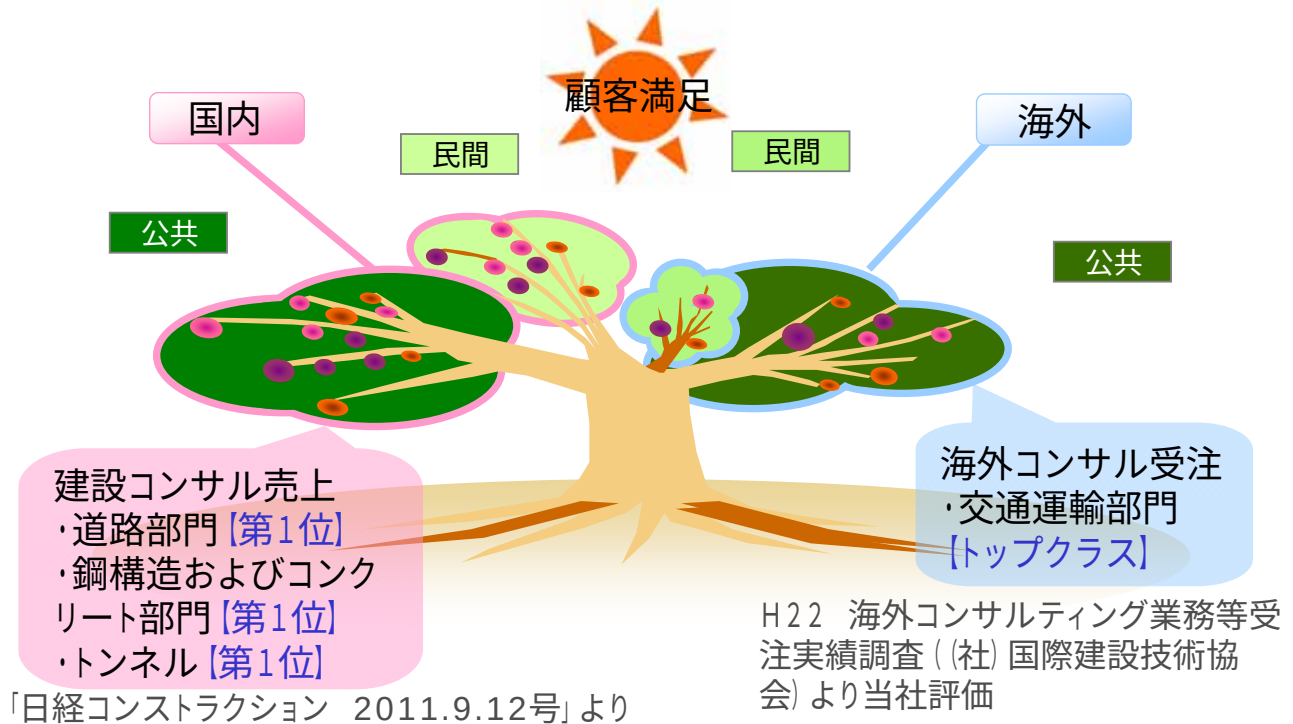
「日本一、世界に伍して戦えるコンサルティング企業集団」



■ビジョン (組織・ 人材として)

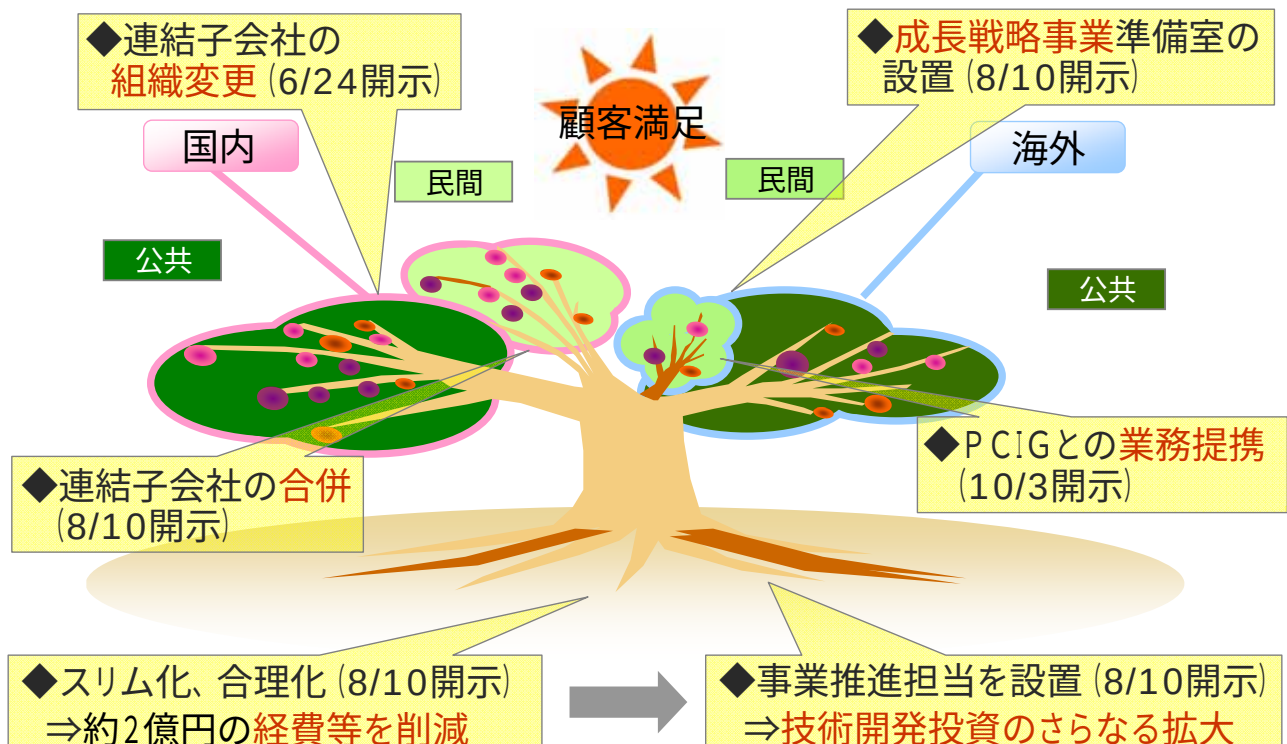
現在のACKGの強み

■交通運輸分野で国内外No. 1クラスの実績



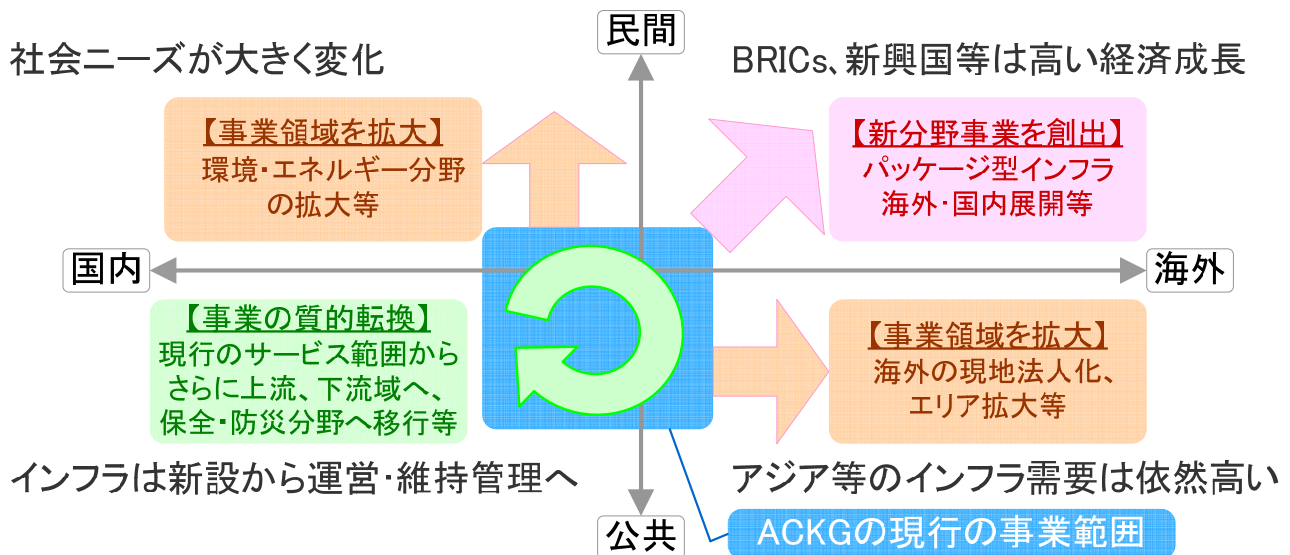
ACKGの構造改革

■新たな成長のため、構造改革を実施



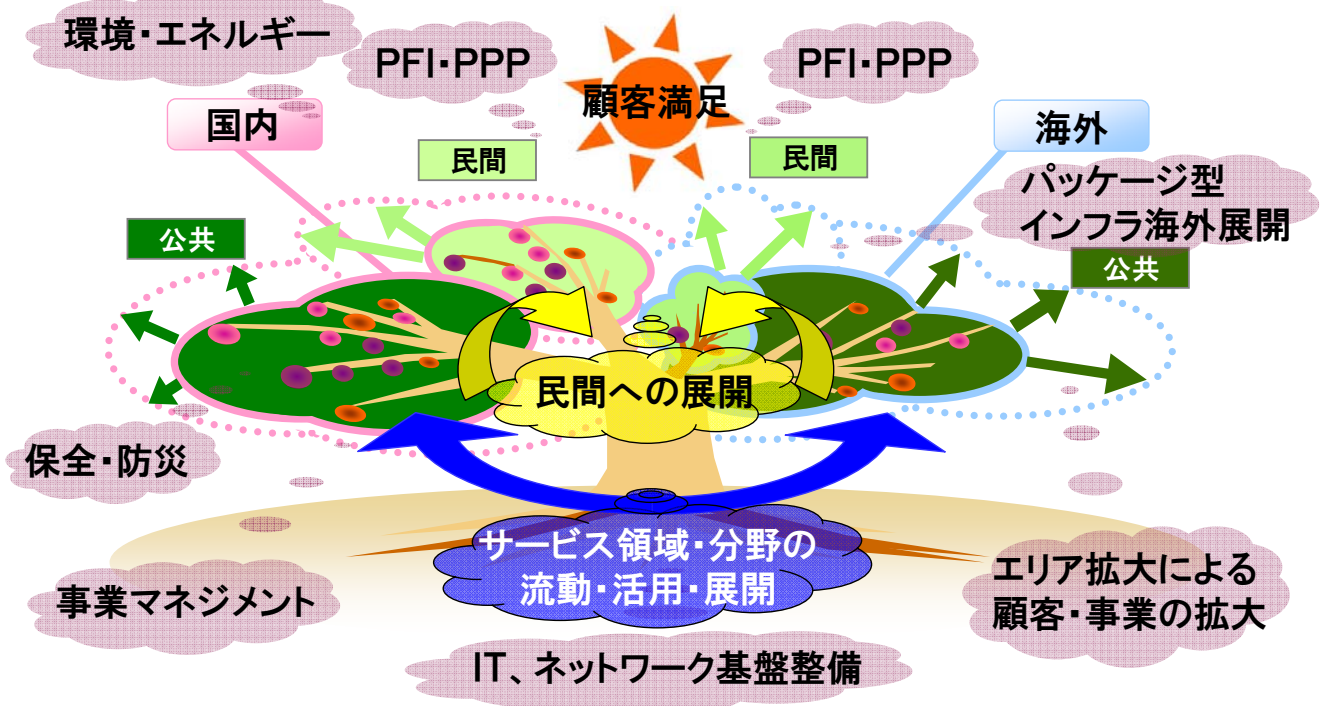
経営基盤改革の方針

- 国内公共事業は減少傾向、世界は大きな変革期と認識
- 市場変化を先取りし、新たなサービスモデル・エリアへの展開を目指す
- 業務環境の激的変化に耐えうる経営基盤を構築



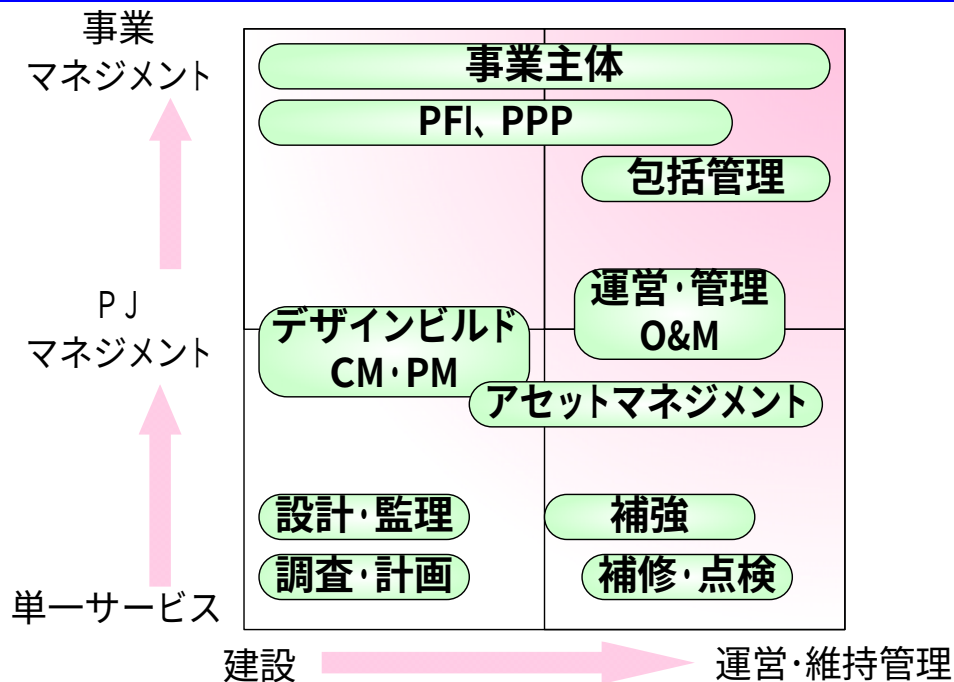
ACKGの今後の展開

- 交通運輸を軸に、次世代の街づくり、社会づくりにチャレンジ



保全・防災、事業マネジメントへの質的転換

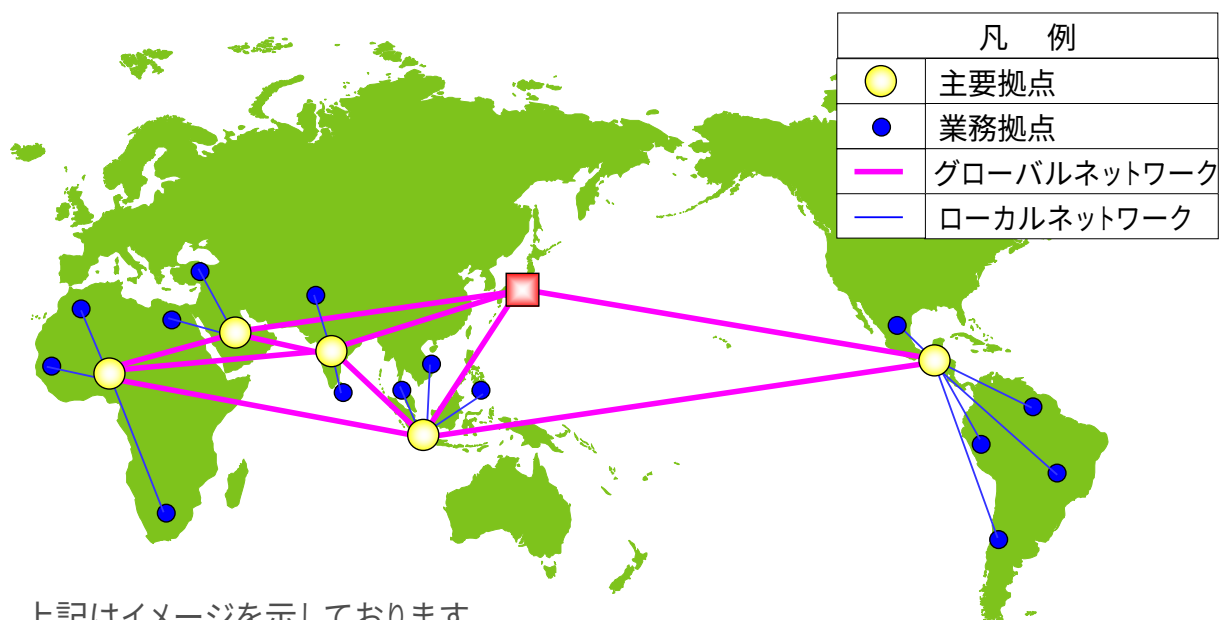
■強みの交通運輸分野を中心に、保全・防災分野、事業マネジメントへと質的転換を図り、上流、下流域の業務拡大



事業領域の拡大 (海外)

■現地法人化、エリア拡大等により海外の顧客・事業を拡大

人、技術、情報の共有ネットワークを構築



※ 上記はイメージを示しております。

事業領域拡大 (国内、特に民間)

■需要増加が期待される環境・エネルギー等分野を拡大

人的資源の最適化等により事業拡大をさらに加速

<実績 (多数あり)>

- ・クリーンエネルギー関連調査 (緑の分権改革など)
- ・小水力発電 (調査・設計から施工まで)
- ・風力発電 (調査・設計、監理)
- ・地中熱ヒートポンプ (調査・計画)
- ・CDM (クリーン開発メカニズム) 調査
- ・地球温暖化対策関連計画 など

小規模農業用水を
利用した小水力発電
(徳島県三好市)



<分野・事業をさらに拡大>

- 再生可能エネルギー関連事業
- スマートシティ関連事業 など

新分野事業の創出

■インフラ輸出を背景にしたパッケージ型事業創出等により、海外民間を中心とした新分野事業を強力に推進

<成長戦略事業準備室の設立>

- 国内外の民間事業(特に海外)の更なる拡大を推進
- 「パッケージ型インフラ海外展開」として、鉄道、水ビジネス等の分野を継続的に推進
- 設計・監理から運営維持管理まで一体的なサービスの実施

<PCIG[※]との業務提携 (基本合意)>

- 国内外の民間市場 (主に海外) 拡大を効果的に推進
- 両グループの強みを最大限活用
- 両グループの発展を目的に、相互協力の基本合意 (覚書)

※ 「PCIG」はパシフィックコンサルタンツグループ株式会社を表す

パシフィックコンサルタンツグループ(株)とは

＜パシフィックコンサルタンツグループ株式会社 (P C I G) とは＞

- ・パシフィックコンサルタンツ(株)等を子会社とする持株会社
- ・当グループと同様、建設コンサルタント業を核とする企業

(2010年度建設コンサルタント分野別順位)

出典:「日経コンストラクション 2011.9.12号」(日経BP社) から抜粋

	(株)オリエンタル コンサルタンツ	パシフィック コンサルタンツ(株)
道路	第1位	第2位
鋼構造およびコンクリート	第1位	第2位
港湾・空港	第5位	第1位
建設環境	第14位	第6位
河川、砂防および海岸・海洋	ランク外(21位以下)	第3位

※1 上記分野はパシフィックコンサルタンツ(株)の売上高上位の5分野を整理

※2 (株)オリエンタルコンサルタンツは、上記の他に「都市および地方計画」(第3位)、「トンネル」(第1位)、「施工計画、施工設備および積算」(第2位) など

P C I Gとの業務提携 概要

①対象事業

- 民間企業を対象とした各種**コンサルティング業務**
- 民間企業が実施する**事業の運営又は参画**
(非コンサルティング事業)

②協力の方法

- 共同出資会社の設立
- 両グループ会社間の**共同企業体(J V)形成** など

③共同出資会社

- 来春を目途に設立すべく、**両グループの準備会**で検討

④海外事業の協力関係

- 今後、継続して協議推進



H23. 10. 12 (水) 記者発表風景

感じてますか 未来の鼓動

『世界の人々の豊かなくらしと夢の創造』を目指し、今の業容にとらわれず**サービス領域の無限大**へ今後もチャレンジし続けます！



本資料および本説明会の説明には、当社（連結子会社を含む）の見通し、目標、計画、戦略などの記述が含まれております。これらの記述は、当社が現在入手している情報に基づく判断や仮定に基づいており、将来における当社の実際の業績または展開と異なる可能性があります。

V：質疑応答



APPENDICES ー主要トピックスー



主要トピックス【震災関連】

◇震災直後から、インフラ施設等の復旧支援に多く貢献

- 東日本大震災発生直後から、東北地方を中心に復旧支援活動を実施
- 道路・橋梁・港湾・河川といったインフラ施設等の被災調査や点検、復旧に向けた設計などの業務を数多く支援



▲港湾施設調査風景

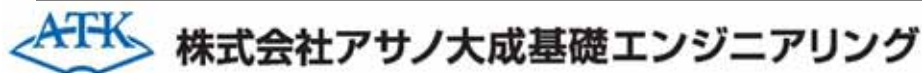


▲橋梁点検調査風景

主要トピックス【震災関連】

◇震災直後の河川管理施設被災調査を迅速に対応 (国土交通省より感謝状が贈呈)

- 震災直後の混乱の中、小貝川堤防の被災調査を迅速に対応
- 的確な追加調査を提案・実施し、被災箇所の復旧に多大なる貢献・支援、発注者より高い評価を得た



▲感謝状



▲被災調査写真

主要トピックス【震災関連】

◇茨城・福島・宮城・岩手の各県で、震災復興業務を支援

- (株)オリエンタルコンサルタンツに震災復興支援室を設置
- 津波被害調査・分析や、震災直後の行動に関する調査業務、市町村の被災状況をふまえた復興計画の策定業務などを多く支援



▲被害調査風景

＜震災復興関連受注実績＞

東日本大震災による被災現況調査業務 (茨城県高萩市等)

震災に関する復興計画関連業務

- ・岩手県陸前高田市
- ・宮城県女川町
- ・福島県いわき市
- ・茨城県北茨城市 等

主要トピックス【海外】

◇メトロ※などインフラ輸出関連プロジェクトに多く貢献

- ハノイ市 (ベトナム) のメトロ業務 (設計・監理から事業運営支援まで) を受注
- 今年10月に一部開業したバンガロール市 (インド) メトロ業務 (プロジェクトマネジメントを実施) など、多くのプロジェクトに貢献



▲ハノイメトロ整備イメージパース



▲バンガロールメトロ車両

※ メトロとは、都市内の中容量交通施設を表し、鉄道的一种である。

主要トピックス【海外】

- ◇ホーチミン市（ベトナム）の高速道路プロジェクトが完成
 ○様々な技術的問題が発生した難工事のプロジェクトについて、当社が適切な設計・監理を実施し、2011年11月に無事完成



<プロジェクトの効果>

- 市内生活環境が大幅に改善
- 市内の通過時間が半分に短縮
- 物流面での大幅な改善が予想



▲東西高速道路（IC）完成写真



▲沈埋トンネル坑口写真

主要トピックス【海外】

- ◇官民連携PPPインフラ事業のF/Sを受注
 ○多様な事業者とコラボレートし「JICA-PPP-F/S」及び「METI円借・民活インフラF/S」を受注



案件名	提案企業
【フィリピン】マニラ首都圏南北連結高速道路PPP事業準備調査	OC、伊藤忠商事、NEXCO中日本、NEXCO西日本、建設技研インター
【インドネシア】ジャカルタ特別州下水処理場整備事業準備調査（PPPインフラ事業）	オリックス、OC、日水コン、日本工営、日本ヘルス工業、横浜ウォーター、パデコ
【モンゴル】ウランバートル・メトロ事業準備調査（PPPインフラ事業）	VPI、OC、丸紅、日揮、アルメック
【インドネシア】ジャカルタ次世代道路交通情報システム事業	野村総研、OC、NEXCO西日本

上記以外も多数受注

主要トピックス【国内公共】

◇観光庁の訪日外国人3,000万人プログラムを支援

- 戦略拠点において、現状調査・課題の抽出を行い、先進的、モデル的事業を検討・実施し、受入環境の改善を支援



<受入環境整備事業 概要>

受入環境整備水準の評価

戦略拠点の整備

地方拠点の整備

受入環境の改善

全国的に受入環境の整備を促進



▲ (施策例) 多言語での観光案内

主要トピックス【国内公共】

◇廃棄物処理施設のライフサイクルコスト低減を支援

- ごみ焼却施設及び汚泥再生処理センターの長寿命化計画に関する策定業務を実施



<計画の概要>

ごみ焼却施設

廃棄物処理LCC※が1を超える
機器・設備更新を計画

CO2排出削減20%以上が期待

汚泥再生処理センター

設備改良工事の延伸を計画

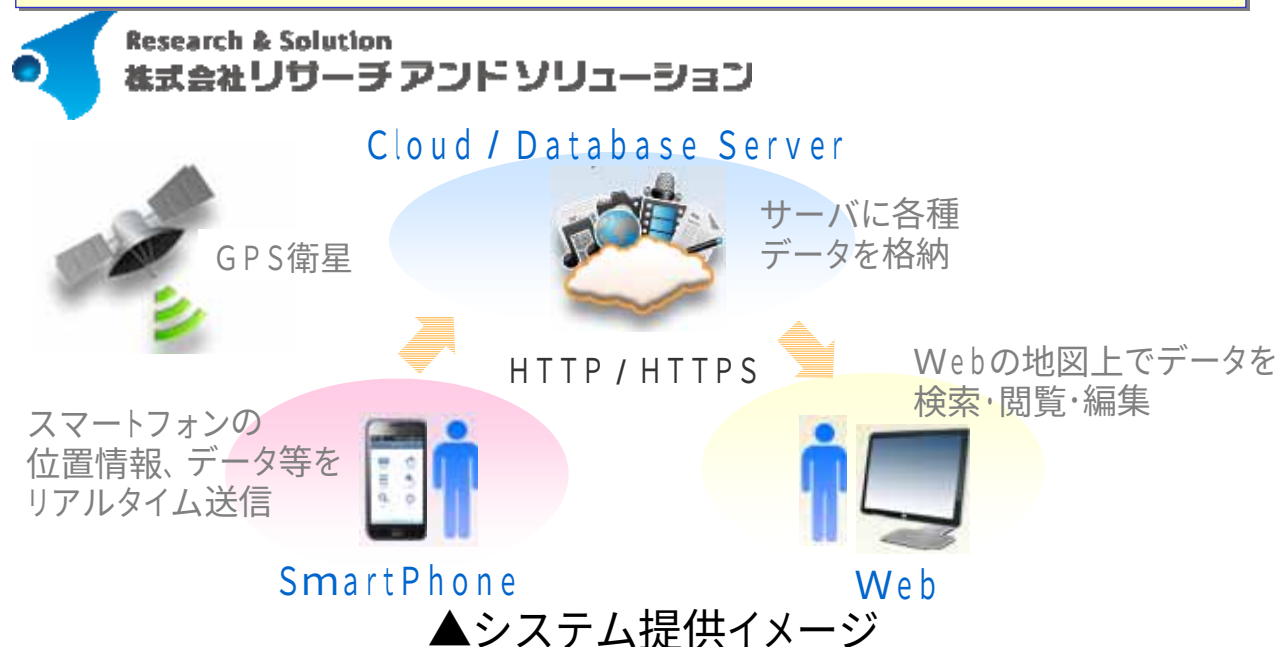
長寿命化に必要な対策を提案
(総コストが安価となる対策)

※ LCCとは、「ライフサイクルコスト」の略、施設の設計・建設、維持管理に要する費用総額

主要トピックス【国内民間】

◇Visual Map Storage Service 『SOCOCA』を提供

- 『SOCOCA』は、スマートフォンとクラウドサーバを連携したオンライン型ストレージサービスを提供

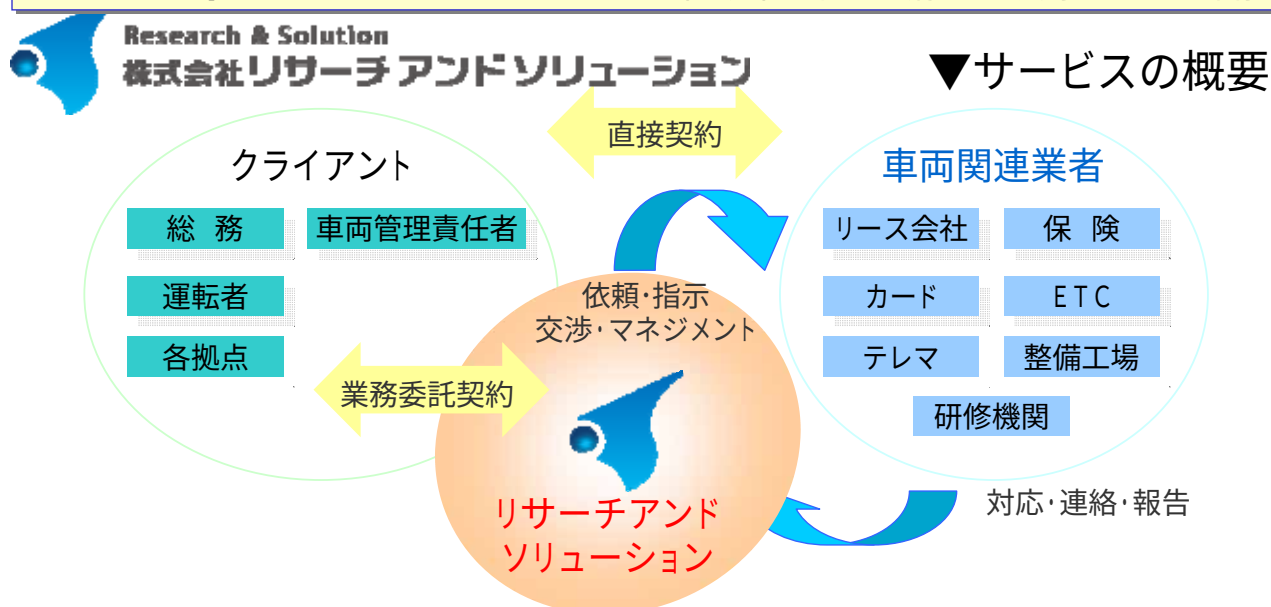


主要トピックス【国内民間】

◇ドラレコ※活用サービスを提供し企業の事故削減に貢献

- 様々な企業 (NEC、ORIX等) との連携により、リスクマネジメント・安全運転啓蒙サービスを提供し、企業の事故削減に貢献

※ 「ドラレコ」とは、ドライブレコーダーの略で、自動車運転の映像や速度等データを保存



グループ会社の紹介



当社では、さらなるグループ経営の効率化、経営体制強化による受注拡大等を目指し、**H23.12.1**より5社体制となります

会社名	創立	主な技術サービス・商品
(株)オリエンタルコンサルタンツ	1957年	交通・都市・環境・構造・防災・プロジェクトマネジメント など
(株)アサノ大成基礎エンジニアリング ^{※1}	1962年	地質・土質・調査・構造・さく井・地下水、建造物解体 など
(株)エイテック	1968年	建設・交通に関する、調査・設計・監理・測量・計器類 など
(株)中央設計技術研究所	1947年	上下水道・廃棄物の処理・活用 など
(株)リサーチアンドソリューション ^{※2}	1978年	ソフトウェア開発・販売、間接業務、人材マネジメント など

※1 (株)アサノ大成基礎エンジニアリングは、H23.12.1付で、大成基礎設計(株)と(株)アサノ建工が合併し、設立いたします。

※2 (株)リサーチアンドソリューションは、H23.10.1付で、吉井システムリサーチ(株)と(株)オリエスシェアードサービスが合併し、設立されました。



株式会社アサノ大成基礎エンジニアリング

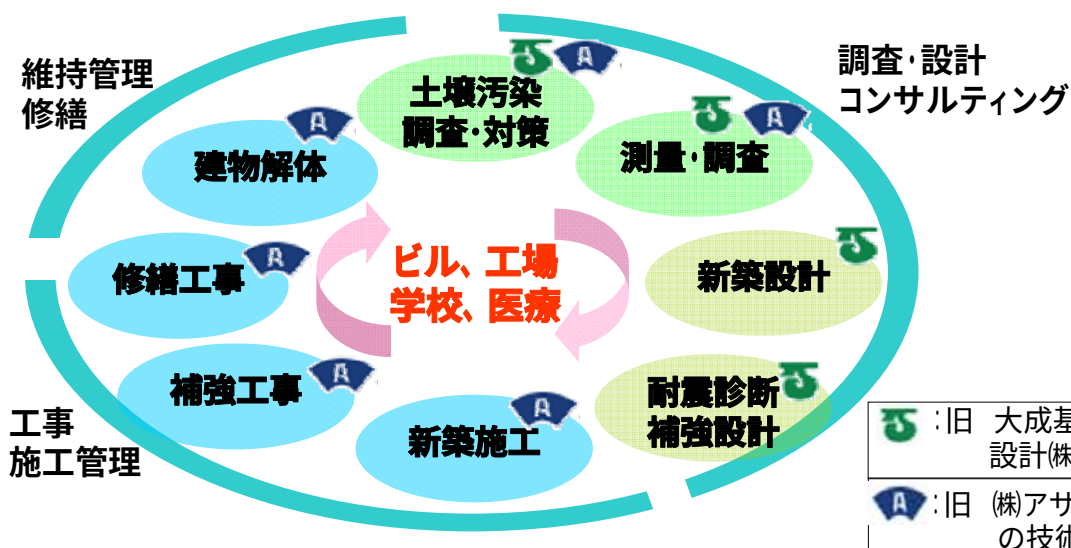
(株)アサノ大成基礎エンジニアリング(H23.12.1設立)

目的: 国内民間市場における競争力強化

狙い: 経営効率化による低コスト体質の構築 (一般管理費率を低減)

: 民間顧客の共有による営業力強化

: パッケージ化商品による上流・下流市場の拡大



(株)リサーチアンドソリューション (H23.10.1設立)

目的：民間市場における管理系ビジネスの拡大

狙い：システム開発と管理系業務の融合によるサービスの高度化

ITソリューションによるBPO事業の高度化、差別化商品の創出

グループ内管理系業務の効率化

旧 吉井システムリサーチ(株)

◇システム開発

◇ITソリューション 等



×

旧 (株)オリエスシェアードサービス

◇管理系業務提供

◇BPO事業 等



サービスの高度化、差別化商品の創出

APPENDICES

—連結決算詳細—



連結貸借対照表

(単位:百万円)	前期		当期		増減額	
流動資産	13,103	(70.6%)	13,135	(73.6%)	32	・減損計上、減価償却により総資本を効率化
固定資産	5,445	(29.4%)	4,677	(26.2%)	▲768	
資産合計	18,548	(100.0%)	17,838	(100.0%)	▲710	
流動負債	9,971	(53.8%)	9,370	(52.5%)	▲601	・短期借入金を一部長期借入金(私募債含む)に固定化し、資金流動性を確保
固定負債	2,175	(11.7%)	3,146	(17.6%)	971	
負債合計	12,146	(65.5%)	12,517	(70.2%)	371	
資本金	503	(2.7%)	503	(2.8%)	—	・特別損失の計上により減少
資本剰余金	748	(4.0%)	748	(4.2%)	—	
利益剰余金	5,003	(27.0%)	4,019	(22.5%)	▲984	
少数株主持分	334	(1.8%)	341	(1.9%)	7	・特別損失の計上により減少
純資産合計	6,401	(34.5%)	5,321	(29.8%)	▲1,080	
負債・純資産合計	18,548	(100.0%)	17,838	(100.0%)	▲710	

※前期: '10/09期 当期: '11/09期

連結損益計算書

	前期		当期		増減額	(百万円)
売上高	31,375	(100.0%)	28,801	(100.0%)	▲2,574	・国内の上期受注の不振
売上原価	23,683	(75.5%)	21,691	(75.3%)	▲1,992	
販売費・一般管理費	7,219	(23.0%)	6,933	(24.1%)	▲286	・人件費・経費削減効果による原価率維持
営業利益	471	(1.5%)	176	(0.6%)	▲295	
経常利益	455	(1.5%)	102	(0.4%)	▲353	・円高による為替差損144百万円
当期純利益	150	(0.5%)	▲942	(▲3.3%)	▲1,092	
受注高	33,380	-----	33,815	-----	435	・海外の受注好調 ・国内の下期受注回復

連結キャッシュ・フロー計算書

	(百万円)		
	前期	当期	増減額
営業活動による キャッシュフロー	1, 197	278	▲919
投資活動による キャッシュフロー	▲174	▲263	▲89
財務活動による キャッシュフロー	▲1, 407	▲51	1, 356
現金及び現金同等物 の期末残高	1, 337	1, 237	▲100

・国内上期の受注不振により、入金の減少
(下期受注の入金は翌期)

・社内管理システムの構築

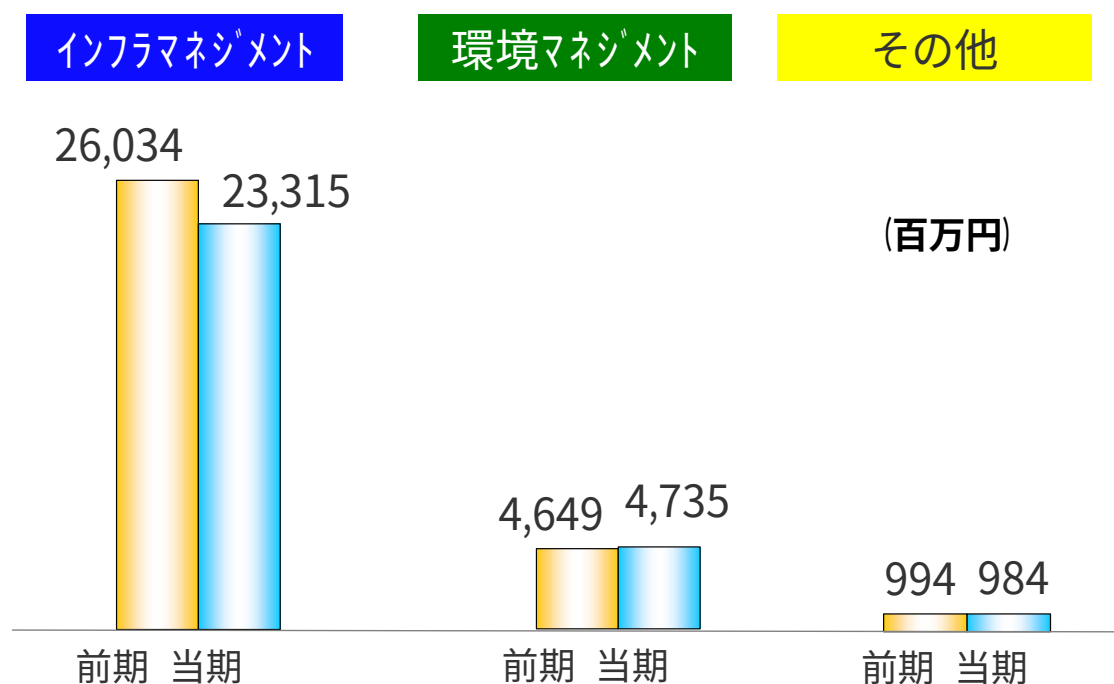
指標関係 (連結)

すべての指標で悪化
翌期以降の回復は必達

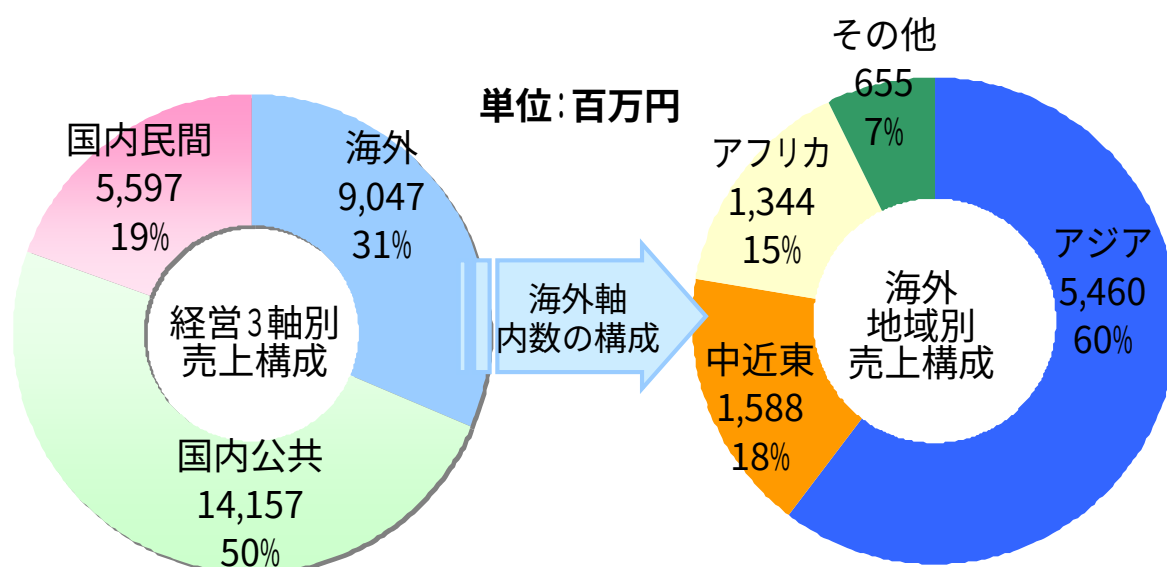
	単位	前期	当期
1株当たり当期純利益 (EPS)	(円)	27.41	▲180.01
自己資本比率	(%)	32.7	27.9
自己資本純利益率 (ROE)	(%)	2.5	▲17.1
総資産経常利益率 (ROA)	(%)	2.4	0.6
株価純資産倍率 (PBR)	(倍)	0.26	0.22

※ 上記は、期末日 (前期: H22.9.30、当期: H23.9.30) の株価を基に整理

セグメント別売上高について



売上高 海外地域別



お問い合わせ先

JASDAQ
銘柄略称: ACKG
証券コード: 2498



〒151-0071

東京都渋谷区本町3-12-1 住友不動産西新宿ビル6号館

TEL: 03-6311-6641 (代) FAX: 03-6311-6642

URL: <http://www.ack-g.com>

(銘柄略称: ACKG / 証券コード: 2498)

問合せ 経営管理本部 平山 光信

e-mail: ir-ackg@ack-g.com



本日はご多忙の中、
弊社の決算説明会にご来場いただき、
誠にありがとうございました。

